

ジュニアチャンピオン大会

1 月 23 日 東京都青梅市

菅原 琢 (多摩 OL)

2000 年代最初のジュニアチャンピオン大会 (多摩 OL 主催) は 1 月 23 日に東京都青梅市で約 400 名の参加者を集めて開催された。

東京近郊のトレインとしては貴重な大型トレインの「七国峠」を 1 万分の 1 にリメイクした「今井城跡」が今回の大会のために用意された。

ジュニアチャンピオン大会 (以下 J C 大会) は 1978 年の第 1 回大会以来、高校生以下のオリエンティアの健やかな活躍を願ってジュニアチャンピオン (高校生以下) を決めてきた。村越真、長田 (高野) 由紀、鹿島田浩二、田島利佳といった日本を代表する選手が歴代の優勝者として名前を連ねている。

17 回目となった本大会では、山田高志 (桐朋学園) が男子選手権クラスで優勝を飾った。残念なことに、女子選手権クラスは申込み者がなく、選手権者は空席となった。

参加者のうち、高校生以下が占める割合は約 3 割で、高校 (中学) クラブの低迷が顕在化している。高校生は将来の大学クラブ、地域クラブを担っていくべく人材であり高校生の低迷はそのまま日本オリエンタリング界の低迷、衰退につながっていく。

そう言った意味で、多摩 OL としてはなんとか高校生 / 中学生になんとか昔の元気を取り戻してもらいたい、初心者に手軽にオリエンタリングの世界に入ってもらいたい、走ることの好きな人にオリエンタリングを体験してもらいたい、と願い活動を行っている。

例えば、J C 大会の参加費は高校生以下および N クラスでは 500 円に設定されている。一般でも 1500 円と他の大会と比べればかなり低く抑えられている。また、ランナー向けの NL クラスを用意したり、初心者説明にかなりのウエイトを割いている。こういった取り組みが功を奏してくれることを願ってやまない。

今年度はクラブ創立 30 周年を迎えるにあたり、11 月 26 日に記念大会を公認大会として実施することが決まっている。現在、20 年ぶりに蘇るトレインの調査を鋭意進行中。適切なコースコントロール、そつのない運営で皆様をお迎えする準備が着々進行中。乞うご期待。

あわせて、一緒に大会を作り上げていく仲間も募集中。多摩地区近郊に在住 / 在勤で地域クラブに所属していない方からの連絡をお待ちしている。

問い合わせ先 tama@orienteering.com

多摩 OL ホームページ

<http://www.orienteering.com/~tama/>

(敬称略) 文責: 菅原琢

第 22 回早大 OC 大会

2 月 20 日 (日) 雪のち曇り 山梨県南都留郡忍野村

三河 OLC 小野盛光

93 年の第 15 回早大 OC 大会を前に池ヶ谷悦郎氏が「東大には雨が、ワセダには雪が、そして……には…… かなり合うと言われることがある。しかし、雪が降ったのは第 9 回だけだった。その第 9 回は早朝からちらつき始めた雪が思わぬ積雪となり、2 人の参加者が危険な状態で発見された」と O-Japan 1 月号に書いている。その後 第 18 回が雪で中止になり、夜行列車で出かけた私は東京駅からでることなく引き返した思い出がある。今回は前日の天気予報から雪で中止かと思われたが、トレインでは思ったほど積雪がなく、気温も高めで、解けることはあっても積もっていくことはなさそうであった。

地図は 1990 年の第 12 回大会を全く同じ範囲、同じ縮尺であった。僅かに可能度 A ランクが増えたのと、植林が成長したためであろう、通行可能度の緑ベタがかかっていた。スタートは後から 15 回大会のコース図 (H35A) を比較すると前と同じ場所。コースもまず北へ登り、東へ走り、下って、スタート後のコースとクロスして斜面をやや下り気味に西へ走り、ゴールもほぼ同じ場所という、同じパターン。しかし、8 年前と比べるとほとんど記憶がなく、全く新鮮であったし、適切な距離と難易度であった。

地図に若干の難点が見られた。可能度 C が意外と通り易かったのと、明瞭な植生界 (・) が現地では不明瞭であり、ガイドラインとして使えなかったことである。

実行委員長の大家さんは過去の気象データも考慮して、この地での開催を決めたと報告書で書いておられるが、標高 (1000m 弱) を考慮すれば、御殿場あたりでは雨で済むことが、忍野村では雪になるので、できれば、季節柄、房総など雪の心配のない地域での開催が望ましいと思う。恐らく、気象条件を考慮し、エントリーを見合わせた方もおられたと思う。また、最近めずらしくなった会場での熱いカップ麺の販売も行われ、ほっとしたランチタイムを楽しんだ人も多かった。

ME、WE の成績は以下の通り

ME 1	鹿島田浩二	29	1:19:10	渋谷で走る会
2	山口大介	24	1:26:29	鳩の会
3	高橋善徳	22	1:28:42	筑波 OL 愛好会
WE 1	木植早生	39	1:11:19	木を植える会
2	高野由紀	40	1:11:27	東京 OL クラブ
3	三好暢子	31	1:13:09	上尾 OLC

早大 OLC 大会試走記

2月19日 山梨県忍野村

村越 真 (静岡 OLC)

当日はあいにくの天気で、六地蔵に続き大会中止かと思われたようだが、前日は寒さは厳しいもののまずまずのコンディションであった。大会当日所用があった私は事前をお願いして、試走要員として使ってもらったことになった。

会場に到着すると、学生たちがいそがしそうに働いている。大会当日とはまた違った緊迫感がある。地図をもらって、すでに付けられている誘導テープをたどってスタートに。スタート枠はまだ準備中で、スタートフラッグまでのテープ誘導が付けられていなかったが、役員の一人が手際よく必要な部分にテープを巻いてくれ、スタート。

寒さのため地面はガチガチで随所に氷も張っており、走りにくい。大会当日ほどの気合いもないので、なかなかペースを上げることはできなかった。登りも集中的にあるので、そういうところではいっきにスピードダウン。まだまだ体力的な面で課題を感じる。

植生は地図で見るほどではなく、Bの藪で表記されている、ほぼ問題なく走れる。日本の地図が概してそうであるように、今回の地図も通行可能性に関してはきつく取りすぎているようだ。また林の中のラフオープンの表記が規定と違うのにも最初とまどった。本来、背丈の低い木（ほぼ1mないし1.5m以下）が生えている場所をラフ・オープンとして取るべきなのだが、林の中で明るくなっている場所がことごとくラフ・オープンでとってある。地図上黄色で表記されているだけに目立つのだが、実際にはそれほどではない。あれはやはり普通の林（ないし藪）で表記すべきだろう。また植生界もとりすぎという印象を受けた。

コースに関しては有効面積の少ない林の使い方としてはまずまずだろう。何力所かに、コントロールを抜ければもっとルートチョイスが増えて面白くなると思われる部分があった。また短いコースでは地図が1枚のため、途中のコントロールが見にくくなっているところがあるようだった。また、コントロール位置に関しても、エリートでは2つほど、運の介入を許してしまうおそれのあるところがあった。エリートのようにより競技性の高いコースでは、もう少し配慮が必要に思える。いずれにしろ、試走という立場でレースの場を与えられ感謝している。

森林ボランティア&パークO

2月27日(日) 愛知県岡崎市

三河 OLC 小野盛光

2月27日(日)に三河OLCとしては初めての催しである「第1回森林ボランティア&パークオリエンテーリング」を開催した。

このオリエンティアによる森林ボランティア実施の発想は25周年記念大会時の一部立ち入り禁止問題からでている。この時、地元林業のかたとんらんかのつながりがあれば、表面化せずに済んだ可能性は高かったのではと考えた。さらにオリエンテーリングとの結び付ける発想は昨年2月に東京で

開催された「森林育林体験ツア&パークオリエンテーリング」である。オリエンティアにも当然日本林業のことを理解してもらうことが今後のオリエンテーリング事業を進めるために重要であり、また、林業職にとっても理解者が増え、林業振興(国産材の需要増加)のためにも重要なことである。

そして、三河OLCの企画を知った東京農大の木俣知大君から(6月3日に森林育林体験ツアを企画中)メールをもらい、林業との相互理解活動は重要である。そのためにはこの趣旨を広い範囲のオリエンティアに知ってもらうためのPRを相互にやろうということになった。すでに木俣君企画の要綱には今回の「第1回森林ボランティア&パークオリエンテーリング」と「愛知・作手大会」の概要を載せていただいている。三河OLCも作手大会のプログラムの一部に「森林育林体験ツア」の要綱抜粋を載せる予定である。

26日午後からの雪が意外と多く、パークOと前後入れ替えることも考えた。朝9時前後には予定された30名弱の参加者が岡崎中央総合公園恩賜苑駐車場に集合。今回の森林の有用性と実態を岡崎市農務課よりいただいた資料を元に説明後、中央総合公園管理協会の大水事務長より、中央総合公園について説明をいただいた。

今回の作業は公園内の2つの遊歩道を結び尾根筋約500mに道をつけること。来年度事業をして、市が整備を予定している部分の下作業となる。市の農務課よりお借りしたのこぎりやなた、あるいは持参の選定バサミを手現場に入る。

8時半ごろは付近の林では雪解け水が落ちる音が雨のように聞こえたが、作業に入るころにはだいぶ静かになった。

2月初めに中央総合公園事業推進室の方と入って付けたピンクのストリーマに従って細い木や枝を払って進む。手を入れる前は6番以下の小径がところどころある尾根も30名近くに入るとあつというまに4番のまでグレードアップ。13時まで作業の予定であったが、9時半に始め、10時半には片道終了。同じコースを折り返して、幅2m程度まで拡張11時半には作業が終了した。従って、オリエンテーリングを1時間早め、13時からスタートに変更。天候も曇りから時々雨交じりの強く冷たい風が吹き荒れる状態に急変。ランナー運営者ともつらいスタートになった。

コースはO-MAP「岡崎中央総合公園:1/15,000」の公園部分を1/5,000で作成し、1月30日の第52回岡崎市オリエンテーリング大会でトリム、Nクラスで初公開した「恩賜地」を用いた3.9km 14コントロール。パークオリエンテーリング、元々起伏のある地形に加え、林の部分も使っており、かなりタフなコースとなった。最後に、優勝者に「自然」をキーワードとした賞品を授与し、健闘を称えた。また「森林育林体験ツア」への参加呼びかけと第2回の開催を約束して閉会した。

パークオリエンテーリングの優勝者は以下の通り

M21	(8名参加)	安齋秀樹23:57
M50	(7名参加)	古澤ヒロシ29:45
M60	(7名参加)	石田亘宏40:08
W	(5名参加)	古澤久美32:39